資料 1-4

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名：　藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。（令和８年５月１日現在）

１．病院の機能及び医師等の配置

項　　目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕薬剤師３名　看護師 14 名　管理栄養士１名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数数	うち指導医数
内科	17	8	4
小児科	5	3	1
皮膚科	2	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	0	0	0

２．アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

		実　　績（令和７年度）			今　後　の　予　定（令和８年度）		
		診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供	講演会等	内科	医師、看護師、薬剤師	2025 年９月 17 日、重症喘息フォーラム in Tokai を web にて行った。参加者 30 名。	内科	医師	2026 年４月 24 日、Respiratory Forum にて重症喘息の勉強会
		内科	医師、看護師、薬剤師	2025 年 10 月 30 日　重症喘息を考える会を web にて行った。参加者 33 名。			
		内科,病理科、放射線科、小児科など	医師、看護師、薬剤師	2025 年 11 月 25 日　第 99 回 東海びまん性肺疾患カンファレンスをハイブリッドで行った。108 名参加			
		内科、小児科	一般住民	2025 年 12 月６日愛知県アレルギー研修会にて学校などの教職員、保育士、幼稚園教諭、保健師などを対象に講演会を行った			
		耳鼻科	医師、看護師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会（1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供	耳鼻科	医師、看護 師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会（1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ 科花粉飛散情報の提供
		小児科	一般市民	名古屋市と協力し「ぜん息児のためのおやこ教室」現地 30 名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「ぜん息児のためのおやこ教室」現地 30 名
	他	内科	一般住民	ホームページ上で気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っている（倫理委員会承認のもの）			
人材育成	研修会等	内科	医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事課	2026 年３月第１回吸入療法勉強会（アレルギー疾患の気管支喘息、自己免疫疾患の肺胞蛋白症など）を多職種にて行った。		医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事課	2026 年５月、第２回免吸入療法勉強会を行う予定である。
		小児科	教職員	食物アレルギー対応講習会（16 回、560 名）	小児科	教職員	食物アレルギー対応講習会（15 回、500 名）

	他	内科	学生	アレルギーに興味のある学生を対象に月に１回程度で勉強会を行っている			今後も継続予定である
助 言 指 導		内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員継続
		内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員継続
		耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散 数予測についての助言

３．アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実　　績（令和７年度）	今　後　の　予　定（令和８年度）
診療	・気管支喘息の重症発作の症例においても ER を経由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。 ・アナフィラキシーについては救急救命センター、皮膚科を中心に迅速な対応を行っている。 ・重症喘息患者症において生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している ・気管支喘息は耳鼻科的合併症や皮膚科的合併症が多いため、耳鼻科、皮膚科と相談しながら診療している ・アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剝離の診療を行い、必要に応じてカンファレンスで検討を行った。 ・土曜日にアレルギー外来を開設し、耳鼻咽喉科領域のアレルギー患者の診療を行った。 アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK 阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行ってきた。 日常診療での疑問や問題点を解決すべく CQ を立て、臨床研究も進められるように日々の診療のレベルアップをはかる。	・今後も　救急部門と連携し診療にあたっていく。 ・今後も　救急部門と連携し診療にあたっていく。 ・今後も継続予定である ・今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。 ・今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。 ・アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剝離の診療を継続する。 ・土曜日にアレルギー外来を開設し、耳鼻咽喉科領域のアレルギー患者の診療を行う。 引き続き、アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK 阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行っていく。 患者それぞれに対応した食物アレルギーの摂取指導を行い患者と家族の QOL を改善し、寛解につながる治療を行う。（小児科）
研究	・NSAIDs 過敏喘息（アスピリン喘息）の臨床背景の検討 ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討 ・ANCA 関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。 ・基礎研究として、「健常／喘息患者細胞を用いた三次元細胞モデルによる気道リモデリングの検証と薬効評価」を行っている 2025 年スギ・ヒノキ科花粉飛散結果 2026 年スギ・ヒノキ科花粉飛散予測について研究した。 ・PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：名古屋市立大学)、	・論文化を目指している ・継続していく ・継続していく ・論文化を目指している ・2026 年スギ・ヒノキ科花粉飛散結果 2027 年スギ・ヒノキ科花粉飛散予測について研究する。 ・PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：名古屋市立大学)、 ・厚生労働科学研究費補助金　免疫・アレルギー疾患政策研究事業「我が国におけるアレルギー疾患の現状を把握する疫学研究：健診を活用したアトピー性皮膚炎有病率、重症度調査」（他施設共同研究、主研究施設：長野県立こども病院）

	・ネモリズマブ注射剤の長期使用時の安全性および有効性に関する観察研究（他施設共同研究、主研究施設：特定非営利活動法人皮膚の健康研究機構） 今後も様々な食物アレルギー診断における EXiLE 法の有用性についてデータを出していくことと、抑制試験についても検討を行い論文化を目指す。	・成人期アトピー性皮膚炎患者の臨床経過に関する疫学調査（他施設共同研究、主研究施設：山口大学） ・ネモリズマブ注射剤の長期使用時の安全性および有効性に関する観察研究（他施設共同研究、主研究施設：特定非営利活動法人皮膚の健康研究機構）、 ・実臨床下でのトラロキヌマブによるアトピー性皮膚炎治療効果と患者満足度評価に関する検討（他施設共同研究、主研究施設：特定非営利活動法人皮膚の健康研究機構） 食物アレルギーの診断やアレルゲン解析、また喘息の吸入に関する研究を進める。

４．アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

・当院ではすべての科で軽症から集中治療質管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、今後も継続することで県民の生活の質の向上を図っていく
・当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関しての知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく
・地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対しての人材育成を引き続き行っていく
・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、当科が主体として行っている「3 次元構造の気管支上皮を作成しアレルギー・免疫の病態」を探索していく
・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性免疫系疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく。